

令和2年度 大野中地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和2年11月5日(木)午後7時から午後8時34分まで
- 2 場 所 大野中公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、下仲副市長、菅谷南区長、石井市長公室理事、阿部南区副区長、渡邊市民局長
- 4 出席委員等 22人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	大野中地区の防犯について
概要	<p>大野中地区まちづくり会議では、相模原市の次期総合計画及び都市計画マスタープランの策定に向けた地区のまちづくりについて、現況把握を行うとともに課題や対応方策についての意見交換を行い、「大野中地区まちづくり会議報告書(平成30年10月)」を作成しました。その報告書の「安全・安心」に係る分野については、大野中地区の重点分野として取り組みを検討しています。</p> <p>このようなことから、「大野中地区の防犯について」をテーマとしてグループ討議を重ね、今後地域で取り組むべき課題として、「 人員の高齢化や担い手不足」、「 地域の見守り体制」、「 防犯環境の整備」の3つに分類し、「地域でできること」、「地域と行政が協働でできること」とは何かという視点で、「グループ討議まとめ」を作成しました。この1年間の議論の成果をもとに、現状や課題に対し、地域支援のあり方や解決に向けた方策など、市の考えや取り組み状況を踏まえながら次の主な項目について懇談を進めたい。</p> <p>【主な項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『高齢化に伴う地域活動の担い手不足への対策』 『こども110番の家事業に係る地域と学校との関わり』 『公民館などの公共施設への防犯カメラ付き自動販売機などの設置の検討』 『相模原南警察署移転に伴う大野中地区の交番の充実』
地区の取組状況等	<p>現在、大野中地区では、身近な犯罪を抑止し、犯罪が起こりにくい環境をつくるため、「小学校を中心とした登下校時の子ども安全見守り活動」、「青色防犯パトロール」、「こども110番の家」、「防犯灯の設置」、「防犯カメラの設置」など、地域で防犯に係る取り組みを行っています。</p> <p>大野中地区まちづくり会議では、取り組みについて現状を把握しながら、地域の課題を抽出するとともに、課題に対する地域の取り組みとして「グループ討議まとめ」を作成しました。</p> <p>地域での取り組みにおいては、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための「新しい生活様式」を視野に入れながら「無理のない継続可能な防犯への取り組み」が大事であることを大野中地区まちづくり会議の委員で共通認識を図るとともに、各団体へ持ち帰り情報共有しつつ防犯意識を高めていくことで、地域の防犯対策の一助になると考えています。</p>
市の取組状況等	<p>多くの自治会において、加入率の低下や高齢化、活動の担い手不足、若い世代の未加入などの状況があると承知している。</p>

	<p>マイナンバーカードを活用した「地域活動ポイント制度」を開始し、公益性の高い防犯や防災活動の中心的な担い手の方にポイントの付与を行っている。また、若い世代のボランティア意識の醸成を目的として、大学と連携し地域貢献活動を自主的に行った学生及び学生のグループに市から認定証を贈呈する「地域活動・市民活動ボランティア認定制度」も実施している。</p> <p>次に、「こども110番の家事業」に係る地域と学校との関わりについては、相模原市安全・安心まちづくり推進協議会、各区安全・安心まちづくり推進協議会による地域ぐるみの防犯活動として、子どもを狙った痴漢やつきまとい行為などの犯罪を未然に防ぐために、子どもたちが不審者などから緊急に避難できる場所として一般家庭や商店・事業所等の協力により、こども110番の家を設置しており、令和2年4月現在で、3,853箇所登録をいただいている。また、各学校を通じて新入生にチラシ・クリアファイルの配布や特別活動の時間、防災訓練の際などに「こども110番の家事業」の説明を子どもや保護者の方に行っている。引き続き、事業の働きかけを行い、地域の皆さまや警察、関係機関と連携して情報提供等に取り組んでいく。</p> <p>次に、防犯カメラ付き自動販売機については、飲料メーカーなどの民間事業者が、「防犯カメラ付き自動販売機」の設置の取組を進めていることは市としても承知をしている。現在、県や民間事業者が周知・啓発に取り組んでおり、本市といたしましても、こうした取組は地域防犯力の向上に寄与する制度であると考えており、普及・啓発等について、研究し検討しているところである。</p> <p>また、防犯カメラは、平成28年度から神奈川県と本市との協調により、カメラの設置費用の一部を補助し、地域の防犯活動を支援している。令和元年度までの4年間で55団体に対し、154台の補助を実施してきている。県の補助制度が令和4年度までとなっているため、制度継続の要望を県へ行っているところである。</p> <p>次に、「大野中地区の交番の充実」については、市では、神奈川県及び県警本部に対し相模原南警察署の高相合同庁舎への早期移転や、市内への交番増設について毎年要望を行っているところである。県議会では、移転後の相模原南警察署の跡地について、県や市による公的な利活用を検討し、それが行われない場合は売却するという見解が示されている。各地域等からの交番設置についての要望を踏まえ、市としても県警本部に対し交番の効果的な設置及び再編を進めることを引き続き要望していく。(市民局)</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	<p>人員の高齢化や担い手不足への対策について、防犯パトロールを一例として説明させていただきたい。地域では相模原南警察署と連携を図りながら防犯活動に係る地域の担い手となる人材の確保や育成を行っているところですが、人員の固定化や高齢化が進んでいると感じている。今後は防犯にとどまらず様々な分野で地域活動の担い手が不足する可能性が大いにあると危惧している。更なる高齢化の進行に伴い、地域活動の担い手不足については、行政も課題として把握していると思うが、課題に対する行政の対策や地域支援など、今後の取組について情報の共有を図りたい。</p>

<p>地区の発言</p>	<p>次に、「こども110番の家事業」に係る地域と学校との関わりについて、10月1日現在で、南区内には1,308軒、大野中地区には322軒ある中、幸いにも危険を回避する駆け込みの事例はないと聞いているが、実際に危険があった場合に子どもたちがこども110番の家の場所を把握しているか、知らない家に突然飛び込めるかなど疑問に思う点もある。このような中、本当に被害にあっていないのかなど、家庭や学校が逐一ヒアリングを行い、その情報を関係者間で共有する必要があると思う。なお、このような課題に対し協力者の方々と子どもたちが学校の行事や子ども会の行事で交流を図り、顔見知りになることが大事であると考え。近年においては協力者が減少傾向にあると聞いており、必要な場所に網羅されているのか定かではないことに加え、まちづくり会議内の協力者の声として「今まで活用されたことがなく形骸化しつつあると感じている。」「地域自治会と学校との関わりが不足していると感じている。」「在宅している時間帯や商店などの営業時間帯と下校時間が合わないことが多々ある。」「学校が協力者のことを把握していないように感じている。」など様々な意見があり、協力者と学校、地域自治会などの関係者間で情報の共有やコミュニケーションが不足していると感じている。また、学校の学区については、他地区にまたがる場合もあり、地域自治会と学校間に加え他地区の地域自治会との連携も必要である。このような公益的連携に関しては行政のサポートが必要になる。</p> <p>このような中、こども110番の家を有効活用するためには、地域自治会、学校、市担当部局、PTA、子ども会、警察などの関係者間で情報を共有し、それぞれの立場でできることを持ち寄り、連携しながら課題解決に向けた取り組みが重要である。例えば取り組みの一つとして、行政が把握している子どもに係る事件、犯罪の発生状況や件数などの情報について、広報紙や地域情報紙を活用し定期的に地域へ提供するなど地域と行政が情報を共有するような仕組みがあれば、地域で起こる身近な犯罪に対する意識の向上が図られ、地域の見守り体制の強化に繋がると考えた。</p>
<p>市の発言</p>	<p>若い世代にボランティア活動を担っていただくために、「地域活動・市民活動ボランティア認定制度」を設けており、一定以上の地域貢献活動を自主的に行った学生に対して認定証を贈呈している。令和元年度は9大学、51名、3団体に贈呈をした。また、教育委員会から伺った話では10年以上活動を継続している学校の安全見守り隊には表彰制度を設けており、広報さがみはらへの活動の掲載や、情報交換会の開催など、担い手不足への課題解決に取り組んでいる。市民局においても「第2次相模原市市民協働推進基本計画」で表彰制度の創設や、多様な主体が連携した活動の情報を収集し「協働ニュース」として発信を行っていく。各地域でも負担軽減に工夫をしていただいているため、今後も協力をして活動の活性化に取り組んでいきたい。(市民局)</p> <p>南区では、区民会議において若者を取り入れるためにはどうしたらよいかをテーマに話し合い、「まちづくりのトリセツ」を作成した。また、区民会議の第5期のテーマを「世代間交流促進のための仕組みづくり」とし、アンケート調査を行った。その中で、「どのような地域活動があるか興味を持つようなPRが必要ではないか」「今は活動できないけど将来の活動のためにスポット的に運営を手伝える環境づくり」「ITなどを活用して気軽に参加できる環境づくり」「子どもと一緒に</p>

	<p>家族で参加するような体制づくり」などのアンケート結果が出たため、結果を基に今後も具体的に話し合い、地域の方に示していきたい。（南区役所）</p> <p>次に、「こども 110 番の家事業」に係る地域と学校との関わりについてですが、学校との関わりということで本来であれば教育委員会から回答をすべきところですが、本日、教育委員会定例会議が開催されるため、出席ができず大変申し訳ありません。教育委員会からは、日ごろから地域の皆さまには各学校の活動や、子どもたちの見守りに大変なご協力をいただいていることを心より感謝申し上げるということと言付かってきた。市としても、児童・生徒が安心して通学できる環境を整えられるように教育委員会や学校にお願いをしているところである。今後、区役所と連携し「こども 110 番の家通信」のようなものを作成し、協力者の方や地域の皆様に情報発信していきたいと考えている。（市民局）</p> <p>本市は約 33 万世帯、72 万人がおり、自治会加入率 51.24% で、それに対して大野中地区は約 2 万 7 千世帯、6 万 3 千人がおり、自治会加入率 64.24% となっている。全市的な自治会加入率から約 13% 上回っていること、また、その取組について感心している。20 政令市ある中 18 市が自治会加入率をカウントしており、本市の加入率が令和元年度は 17 番目、令和 2 年度は 18 番目となった。大野中地区の人口に対して 64.24% の加入率だと、考え方によっては多くの担い手がいるのではないかと。フェイス to フェイスで地域の顔が見える環境を作っていく、シビックプライドの醸成を図っていただきたい。大野中地区にはその可能性が高く、期待をしている。また、「こども 110 番の家事業」について、形骸化していることはご指摘のとおりだと思っている。制度だけ作って中身がないのでは意味がないため、ご指摘いただいたことに感謝している。市としても、「こども 110 番の家事業」について、実態を踏まえ、更なる充実を図るため、必要な見直し等を行い、全ての家で協力していただけるような体制づくりをしていきたい。（市長）</p>
地区の発言	<p>公民館などの公共施設への防犯カメラ付き自動販売機などの設置の検討について、地域で設置している防犯カメラに加え、地域にある自動販売機が、防犯カメラ付き自動販売機であれば犯罪抑止に効果的であると考えている。また、公共施設、公共スペースなどにも防犯カメラ付き自動販売機を設置することや市が使用する公用車へドライブレコーダーを搭載することができれば、地域防犯の役割を兼ねるとともに犯罪抑止に繋がると考えられる。例えば、地域住民の利用機会が多い公民館などに設置してある自動販売機について、防犯カメラ付き自動販売機に変更するとともに、地域へ周知することにより利用者の安全・安心に加え地域住民の防犯に対する意識の向上が図られると考えられる。このように、地域と行政が連携し防犯カメラの円滑な設置を促進することができれば、さらに防犯カメラが普及し防犯体制の強化に繋がると考えられる。</p>
市の発言	<p>市が公民館等の公共施設へ「防犯カメラ付き自動販売機」を設置することは、地域防犯力の向上に寄与すると考える。若沼自治会では若沼ふれあい広場と若沼自治会館に「防犯カメラ付き自動販売機」を設置していると伺っている。県においても、飲料メーカー等の民間事業者による「防犯カメラ付き自動販売機」の設置について、企業、自治会のマッチングを行うなど地域の防犯力を高める取組を促進しており、本市としてもこうした取組を後押しできるような仕組みについて研究してまいりたい。また、ドライブレコーダーについては、市が保有している</p>

	<p>公用車の約4割、400台に搭載をしており、今後も増設をしていく方針である。今後は、防犯カメラの代用としてドライブレコーダーの活用の有効性などを検討していきたい。(市民局)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>相模原南警察署移転に伴う大野中地区の交番の充実について、神奈川県警の交番等整備基本計画で今後10年間に県内の交番が約15%削られることになっている。また、新設を要望する地区の対応については、交番の数は増やさず近隣の交番を移転する計画になっている。大野台地域の住民は1万8千人を超えかなり大きな地域となっており、車上荒らし、痴漢、窃盗などの犯罪が多く発生していることから、防犯対策を強く望んでいる。約25年前から自治会を中心に交番の要望や設置場所の提案が出されたことがある。最近地域では相模原南警察署移転の話が伝わり、以前に増して交番設置を要望する声が多くなった。南区には13か所の交番がある中、例えば小田急相模原駅周辺にはかなり近いエリア内に2つの交番が設置されていることから、交番等整備基本計画を踏まえ現在の地域の特性を見直していただくことで、そのうちの1つを大野台地域へ移転できる可能性が高いと思っている。このような交番新設の要望や活動は、行政と地域が情報を共有して連携していくことが必要であると考え、行政の考えを伺いたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>国・県の立場から一般論として説明すると、一つの交番を設置するのにかなりの人員が必要となり、配置できる警察官の数によって設置が左右される。公助の交番だけではなく、共助として地域の皆さまが安全・安心なまちづくりの推進のために防犯パトロールや防犯カメラの設置などご尽力いただいていることに感謝申し上げます。また、市・地域の立場から説明すると、交番設置が難しい中で実現していくためには、地域と行政が一体となって強力な取組を行う必要がある。大野台地区を含めて各自治会からの交番設置の要望を踏まえ、毎年、神奈川県及び県警本部に要望を行っている。大野中地区については、相模原南警察署の高相合同庁舎敷地への移転の動きもあることから地域の特性や特殊事情を考慮し、地域防犯力の低下を招かないように相模原南警察署の利活用、交番設置等の警察機能の充実について地域と行政が連携して県及び県警本部に強く要望を行うことが必要であると考え。(副市長)</p> <p>公民館などの公共施設の防犯カメラ付き自動販売機の設置については、新たに勉強させていただいたが、一度若沼自治会の取組の様子を伺いたい。自動販売機を設置するのであれば、カメラ機能を付加するなど犯罪抑止を含めた形をとれるよう研究していきたい。イギリスが防犯カメラ設置大国となっており、地域ごとに声かけ、ネイバーフッド・ウォッチを積極的に行っている。声をかけることによって、見られているという意識になり、犯罪抑止の効果があるので、人間関係が希薄になっている中ではあるが、見知らぬ人への声かけも行っていただきたい。</p> <p>ドライブレコーダーについては、救急車・消防車・ごみ収集車など、日ごろ活動している公用車にも積極的に導入しなければならないと考えている。</p> <p>交番等整備基本計画については、先ほどお話のあったとおり、県警の方針は約70箇所削減、また、スクラップアンドビルドという形で整備を行っている。相模原南警察署が大野南地区に移転する方向が示されているため、地域の特殊事情が他の地域と異なることから、地域の安全・安心のために大野中地区に交番が設</p>

	置できるよう市としても支援していきたい。(市長)
地区の発言	子どもの見守りに関連し、学校の登下校の見守り隊について、学校によって人数に差が生じていると感じている。このような中、通勤途中に弥栄小学校の見守り隊を見かけるが、人数が多く学校の先生の手が届かない部分で活動しており、非常にありがたいと思いながら見ている。
市の発言	情報交換会を開催し、募集方法などを共有している。教育委員会にも情報共有をし、さらに充実できるように検討していきたい。(市民局) 担い手不足の課題にも関係するため、弥栄小学校の人員の集め方などを参考に、教育委員会と連携をして地域の事情を踏まえた上で全市に広げていきたい。 (市長)
地区の発言	4つの課題の中で、一番大きいと感じるのは相模原南警察署が相模大野に移転してしまい、防犯上、警察の大きな屋台骨がなくなり、地域にとって大変痛手になってしまうことである。移転に関して反対はしませんので、先ほど市長からお話がありましたが、大野中地区の防犯については、市としても協力をしていただきたい。

市長の感想等	<p>本日は、4点に関して皆さまからご提言やご質問をいただき、勉強させていただいた。特にこども110番や防犯カメラ付き自動販売機については勉強不足な点があったため改めて勉強していきたい。財政難ではあるが、やるべきことをやり、次の世代に確かなタスキを繋いでいくことが私たちの責任であると感じている。皆さまには、地域活動や自治会加入促進に率先して参加していただき、顔が見える関係をしっかり作っていただきたいと思っている。私自身もコロナ禍ではあるが、地域活動にしっかり対応していきたい。</p> <p>また、庁内分権として、今年度は有害鳥獣対策にかかる権限や財源を緑区長に移管し、観光施策にかかるイベント等についても各区に移管をしている。令和3年度も少しずつではあるが、できることから区長に権限・財源を移管しながら、各区の特色を、区長を先頭に皆さんと一緒にまちづくりを進めていきたい。</p>
--------	---